

サルナシ：1果序（1房）当たりの結果数

石 沢 進

野生の植物の内、秋に熟すると生食できる果実を着けるものが多い。そのような果実の着き方は、その年の天候などにより、バラツキがあってよく実をつける豊作の年があったりする。2004年の夏は山へ行ってもヤマブドウやサルナシなどの実が多く着いている年で、豊作年に当たるようである。多くの果実が着くといっても、着き方について詳細に調べたことがない。

たまたま、サルナシに多くの果実を着けた株があったので、その房（果序）を採取して1果序（1房）当たりの結果数を数えてみたところ次のようである。

1果序（1房）当たりの結果数

結果数	1	2	3	4	5	6	7	調査総数
房 数	67	95	74	13	11	5	3	268

調査場所：南魚沼郡六日町十字溪下津川

600 m [5539 - 40 - 31]

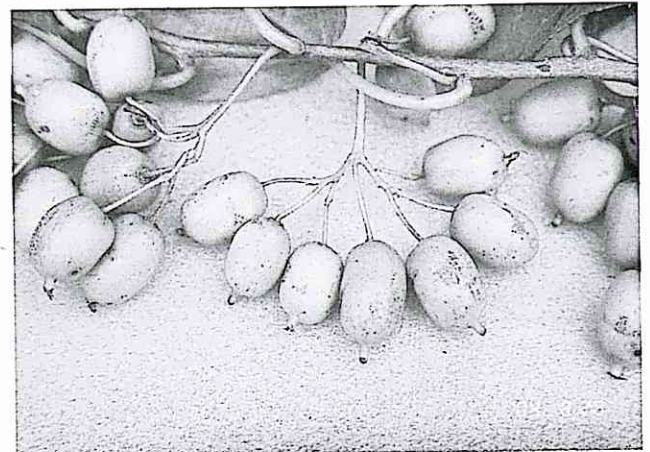
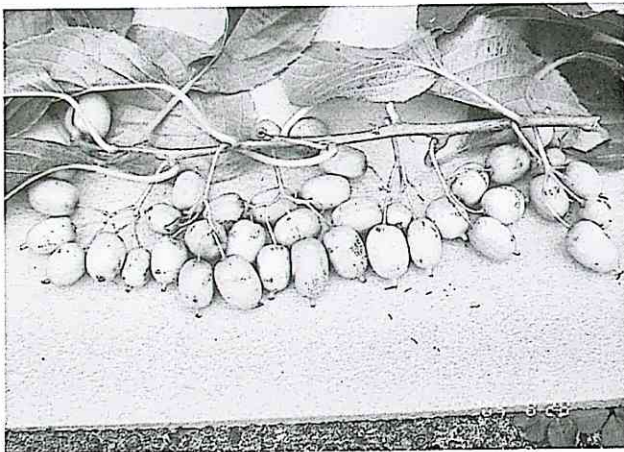
調査日：2004 8 28

上記のように1房に2個の果実を着ける場合が多かったが、1房に4・5・6と多くの果実を着けるものもあり、最高は1房に7個である。1房に何個の花が着くのか確かめていないが、7個も着くことは珍しいように思われる。7個も着く場合は、果実の大きさに少しバラツキがあり、すべて同じ大きさではない。

一カ所で1株の調査であり、果実の着き方を論ずるには、無理があるが、1房に7個も着くのは結果数の限界であるように思われる。

身近に生えている植物で特異な現象と感じたら、ご指摘を頂ければ幸いです。

今年は、上記の原稿を書いた時点では、ブドウやサルナシの「成り年」と感じていたが、度重なる台風や降雨によって、秋には山野の植物の実りが多くなかったようである。各地に出没するツキノワグマからも、山の植物の実りは極めて貧弱であったようである。



新潟県自然保護団体の会報

「山のともだち通信」(毎月定期講演会・観察会を精力的に開催しています。)

新潟県生物教育研究会誌 No. 39 (2004年3月発行)

新潟県生態研究会誌 第6号 (2004年3月発行)

ろうたす 28 (2003年3月)

四季のつとて 30 (2004年3月発行)

じねんじょ No. 25 (2004年 月発行)

しぶきつば 25号 (2004年3月)

蛸とともに(新潟県ホテルの会会報) No. 12 (2002年2月)

ニューズレター 第24号 (2004年11月)

新発田の水と緑 No. 26 (2000年12月)

山のともだち

新潟県生物教育研究会

新潟県生態研究会

上越植物友の会

東蒲自然同好会

植物同好じねんじょ会

にいがた貝友会

新潟県ホテルの会

にいがた森林の仲間の会

しばたの水と緑を守る会